

学校関係者評価書

1. 本園の「建学の精神」

太陽のあまねくそのひかりでつつむ

太陽（自然）は万物を平等に照らし、慈しみ、はぐくみ育ててくれます。
園章にもありますように園のシンボルである「太陽」のあまねく光のように、
私たちは子どもたち一人一人と向き合い、大切に育てます。

2. 本園の教育理念・方針

グローバル化やICT・人工知能などの急速な技術革新により、社会は大きく変化していきます。
本園では、子どもたちが5年後、10年後も、キラキラと輝く目でたくましく生きていける**3つ**の
力を育みます。

教育の2本柱：「**身体づくり**」と「**知能を育てる**」！！

1. 子どもの持つ素晴らしい 力をぐんぐん伸ばす “**土壌づくり**”

子どもの「やりたい」と
思う**主体的意欲**は、**遊び**
を通して得られる経験と
知識の中から芽生えます。
本園はその芽を大切に、
自然に触れながら「健康
な心」を育み、広い園庭
と体育館で「**身体づくり**」
に励みます。

2. 人間として、たくましく “**生きる力**”を育む

本園の教育の2本柱となる
「**身体づくり**」と「**知能を育
てる**」を通して自ら**やる気**
をもって、焦らずゆっくりと**学
ぶ楽しさ**を培い、自ら**夢中にな
って取り組む姿勢**や**思考
力・創造力・最後までやり遂
げる力**を身に付けていきま
す。
本園は子どもの未来を見据
え、**小学校に行ってから困ら
ない教育**を目指します。

3. 他人を思いやる心を 持った子に育てる

本園では近隣の高齢者等「**施設訪問**」の実施や、園周辺道
路を「**あいさつ通り**」と呼び、
あいさつ運動に取り組むな
ど、地域の方との交流を図っ
ています。また、**たてわり活
動**や併設保育園「**キッズハウ
スよいち**」のお友達とかかわ
る機会を大切に、お年寄り
や幼い子を「**思いやる**」優し
い心を育てています。

思いやりの
ある子

よく考えて
工夫する子

元気で
仲良く
遊べる子

終わりまで
がんばる子

自分から
進んで
決まりが
守れる子

教育目標

「**目がキラキラと
輝いている子に育てる**」

3. 教育課程（各学年の教育目標）

（満3歳児目標）

- ①園に慣れる
- ②基本的な生活の仕方を知り園生活を楽しむ

（年少組目標）

- ①基本的な生活習慣を身に付ける
- ②集団生活に慣れる（毎日喜んで登園する）

（年中組目標）

- ①活動に進んで取り組み、最後まで頑張る
- ②友達と遊ぶ楽しさを味わう
- ③我慢する心を養う
- ④人の話を聴く態度を養う

（年長組目標）

- ①人の話をよく聴く
- ②意欲を持って最後まで頑張る
- ③自分の事は自分で責任を持ってやる
- ④誰にでも優しく思いやりを持つ
- ⑤我慢する心を持つ

4. 学校関係者評価委員会の評価結果

※評価の方法

A:充分達成されている B:達成されている C:取り組んでいるが成果が充分でない

D:取り組みが不十分

評価項目	自己 評価	委員会 評価	学校関係者評価委員からのご意見
I. 保育の計画性	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な園行事を単に中止とせず、学年別や日程・時間をずらすなど密を避け、安心・安全に配慮し保護者の理解を得ながら積極的に推進している姿勢は評価できる。 ・入園・進級後すぐに休園となり心配したが、製作キットやはげみ表の配布で、園への興味・関心を保つことができた。登園再開後もスムーズに園へ通うことができ良かった。 等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが猛威を振るう中、どうしたら子どもたちが安全で楽しい園生活を送ることができるのかを考え、保育の見直しをしたことで、無理のない保育展開ができた。引き続き子どもたちの育ちに何が大切か、また必要か等を考え、活動・行事を見直していく。 ・各種行事を開催するにあたり、園内での感染防止は勿論のこと、環境の見直しをし、感染防止対策への保護者の理解と協力を得て安全かつ円滑に行うことができた。今後も感染防止に配慮した計画をしていく。
II. 保育の在り方 園児への対応	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、今までの自由を奪われ思い切り楽しめない状況だが、喜んで登園できるよう様々な手立てを考慮していくことを願う。 ・人との距離を取ることが当たり前になり、子どもたちの遊び方にも影響がでるのではと心配したが、外遊びや密にならない工夫をし、思いきり遊べていると思う。 等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内で過ごすことが増えた子どもたちの体力低下と不安の解消に努め、子どもたちの話をよく聞くことや外遊び、体育活動を重視し、伸び伸びと遊ぶ環境作りを心がけていったことで、大きな怪我や病気をせずに過ごすことができ良かった。今後も園と家庭が連携しながら子どもの安全・健康管理に努めていく。
III. 教師としての 資質や能力 良識・適正	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内での会議を通して、子どもの変化状況の見取りや見立てを今後も願う。 ・園児へのワクチン接種が近く行われるが、保護者の不安にも適切な対応を願う。 等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止に必要な情報を収集し実行する中で、子どもたちの体調の変化に過敏になり過ぎず、冷静な判断ができるよう心がけていった。引き続き様々な情報や学びを習得し資質向上に努めていく。 ・基本的な手洗い・うがい・消毒・換気・マスクの着用等を徹底したことで、新型コロナウイルスだけでなく、その他の病気にかかることなく過ごせたため、今後も感染予防に努めていく。

IV. 保護者への対応	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に分かり易く目標から方法まで提示できるよう工夫しているため、今後も継続を願う。 ・コロナ感染防止のため、保護者が直接子どもたちの様子を観る機会が減った。写真や文面等で様子を把握できたが、今後面談等が再開できるよう計画を望む。 等
課題に対する方策	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止のため、保護者の園内への出入りを制限したため、子どもの様子の「見える化」を図り、写真や文面で伝えていった。今後も保護者に分かり易く情報や様子を発信していく。 ・子どもたちの様子・成長は、電話やお迎え時に伝えるようにしているが、直接の面談については、引き続き最大限の感染防止に努め、安全が確保できた時点で再開できるよう準備しておく。 		
V. 地域の自然や社会とのかかわり	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の畑で育った花の成長や野菜を収穫する楽しみを体感し、良い経験や学びができています。今後も自然体験学習の、積極的実施を望む。 ・コロナ禍で、施設訪問の自粛は仕方がないと思う。そのような中、園児からのメッセージに、地域の皆は元気づけられたと思う。日頃から周りの方への感謝の気持ちを忘れないことを望む。 等
課題に対する方策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との直接交流は、互いの感染リスクを考え、中止せざるを得なかったが、今後新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、様々な方法で行っていく。 ・身近な畑で、植物の成長を楽しみ、収穫体験をする等、自然に触れる体験を引き続き継続していく。 		
VI. 研修と研究	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、研修会の減少はやむを得ないと思うが、努力していることは評価書から読み取れる。今後は更に時間の有効活用を含め、リモートの意識を高めることが重要と考える。 ・保育の質の向上には園内での話し合いは欠かせない。気安く話し合える場作りに努めてほしい。 等
課題に対する方策	<ul style="list-style-type: none"> ・直接講演を聞き、ディスカッションをする等、例年のような研修ができない状態であるため、現在もオンライン研修はしているが、今後もオンライン研修への参加を積極的に行い、園内研修の充実を図るなど、様々な方法で学びの場を確保し、保育に生かしていく。 		

令和2年度まとめ及び令和3年度への方針

1. 令和2年度のまとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、年度初めから登園自粛や学年別登園をせざるを得ない状況となった。そのため、家庭で過ごすことが増えた子どもたちが、友達と一緒に遊ぶことができない状況に、不安や淋しさを抱かないよう、何ができるのかを考え、家庭でも楽しめる製作物の配布や、学年別の登園日には外遊びや体育活動を主に実施して、子どもたちの心のケアに努めたことで、その後の登園がスムーズになった。

また、多くの人が集まる参観会や運動会・発表会等の行事については、「子どもたちの安全・安心」を第一に考え、保護者の理解と協力のもと、参観人数の制限や学年別開催、また配信での発表会とする等に対応し、感染拡大防止に努めたことで、体調を崩す子どもなく、元気に登園することへと繋がった。

今後も感染拡大防止の徹底に努め、子どもたちが安心してのびのびと園生活を送れるように、園と家庭とが力を合わせて、子どもたちを見守っていく。(子ども目線)

2. 令和3年度取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
あいさつ運動の励行	<ul style="list-style-type: none">・人との繋がりが希薄となる中、あいさつは、人との繋がりができ、延いては自分の気持ちを他者へ伝える「コミュニケーション能力の向上」へと繋がっていく大切なものと改めて実感した。地域の方に支えられていることへの感謝の気持ちをもって今後も挨拶運動を実施していく。
子どもたちが健康でのびのびと園生活を楽しむ	<ul style="list-style-type: none">・子どもたちの気持ちを受け止め、「やりたい」ことに夢中になれる環境づくりに努め、材料や提案内容を工夫していく。・密にならない遊び方や内容の検討、更には園と家庭とが連携して、子どもたちの安全を守り、感染防止に努めていく。・国際交流の回数を増やす等しながら、「英語に触れる」機会を設けていく。
地域に根差した幼稚園づくり	<ul style="list-style-type: none">・小学校と電話やメールで情報共有ができるよう努めた。引き続き小学校との連絡・連携を行ない、相互理解を深め小学校に行っても困らない教育の実践をしていく。・地域の方との交流は、コロナ感染状況をみながら、無理のない範囲で交流していく。